

学校だより



市川市立平田小学校

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する そして共に幸せ～

いなほ  
稲穂

学校教育目標

夢をもち、たくましく生きる  
子どもの育成

No.20

令和4年12月23日

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/hirata-sho>**話す・聞く・読む・書く活動を丁寧に積み上げて**

元日産自動車(株)取締役の志賀俊之氏が、数年前に「グローバルに活躍する人材の共通条件」についてのインタビューに次のように答えています。

「…(略) リーダーシップ云々の前に必要になるのは、自分の意見を相手にきちんと伝えられることです。…(略) 日本人が控えめに聞き役に回る姿をよく目にします。(略) ではなぜ、皆の前で発言できないのか。それは間違えているかもしれない、同意を得られないかもしれない、正解がないことに不安を感じるからではないでしょうか。いろいろな考えがあって当然のグローバル社会で、唯一の正解を探そうとしても無意味です。たとえ間違った答えだとしても、自分の意見を述べた勇気を称えてあげる。やはり、こうした失敗や挫折に寛容な文化でないかぎり、多様性を受け入れ、どうすれば受け入れてもらえるか試行錯誤しながら自分自身の言葉で表現できる力は鍛えられないと思います。」

自分の意見や思いを、相手を意識して伝えることは重要ですし、聞き手は相手を受け入れる聞き方が求められます。授業中の教員は、こうした様々な活動をコーディネートしなければなりません。

さて、先月中旬に県・市教育委員会合同の学校訪問がありました。全教科・領域にわたって授業を展開して指導いただく機会です。午後には、教科・領域別の分科会が1時間半、全体会が45分ほどありました。ここで得られた成果やいただいた課題を、目の前の子供たちに「いつでも、どこでも、全員で、ちょっとずつ」還元できるようさらに努めているところです。

その課題の一つに、「話す・聞くことについてのルールの再構築」があります。何でもないことのようにですが、

- ①主語・述語を整えて話す
- ②接続詞を使う
- ③聞き手を意識した表現力を向上させる



の3つ。示された3点は意識しないとなかなかできません。だからこそ、教室だけでなく、家庭の会話においても気をつけていきたいことです。主語のない話し方や語尾まで言い切らない話し方、自分の頭の中ではわかっているけれど、相手には何を云わんとするかわかりにくい話し方になっていることはないでしょうか。

訪問時の指導では、話し手・聞き手・授業者別に、次のような課題をいただきました。

- (1) 話し手は聞き手に正対して、聞き手の聴く構えをつくる「間」を作り出す。
- (2) 聞き手は話し手に正対し、話し手の意図や考えを読み取るように聴く。
- (3) 授業者は聞き手の反応をよく観察し、別の子に自分の言葉で復唱させて共有する。

平田小学校としての目指す姿を明確にして、発達段階に応じた取り組みを全職員が行うことにより、「話す・聞く」活動を通して学力向上につながると考えます。学力テストなどで記述式問題に課題があることがわかっていますので、「読む・書く」活動にも比重を置きながら、自分一人の中で学びを完結させてしまわぬように指導・支援をしていきたいと思えます。

# 雅楽ワークショップ & 本公演



12月5日と6日の両日、5・6年生を対象に行われた「雅楽 ～本物体験～」は貴重な時間になりました。雅楽とはどういうものかを頭と体、そして心で理解し、正式装束をまとった雰囲気は心に訴えるものがあったと思います。

## 来年度からの第5学年の宿泊学習は…

5年生が1月1日から2泊3日で高峰高原（長野県）でのホワイトスクールに出かけます。12月入ってすぐにスキーウェアの試着会が行われ、気分も高まります。

新型コロナウイルスの心配がさらに高まる冬場の実施です。学年・学級閉鎖や国の対策により実施ができなくなる場合も考えられます。より安全に、より安心して、より確実に貴重な宿泊学習を実施できるようにするため、来年度以降は下記のように変更します。

記

### 1 変更内容

|          |    |                |   |      |               |
|----------|----|----------------|---|------|---------------|
| (1) 実施内容 | 従来 | ： ホワイトスクール(2泊) | ⇒ | R 5～ | ： 林間学校(1泊)    |
| (2) 実施時期 | 従来 | ： 1月中旬         | ⇒ | R 5～ | ： 7月中旬(夏季休業前) |
| (3) 実施場所 | 従来 | ： 長野県小諸市       | ⇒ | R 5～ | ： 山梨県河口湖方面    |
| (4) 諸費用  | 従来 | ： 約5万円         | ⇒ | R 5～ | ： 3万円弱        |

### 2 林間学校の目的・活動

- (1) 集団で一つのことを成し遂げたり、作り上げたりする達成感・所属感を味わうとともに、それを互いに認め合って個々の自信につなげる機会とする。
- (2) その地ならではの体験的な活動、創造的な活動を経験する。
- (3) 学校外における宿泊の集団生活を通して、感謝の心を育み、社会性・協調性の伸長を図る。

### 3 変更の理由

- (1) 仮に感染が確認された場合、当該児童は集団と行動を別にするのが迫られるが、保護者のお迎えが大きな負担・支障となる場所ではないこと。
- (2) 宿泊経験がない中なので、1泊であれば出かけた翌日に帰宅できる安心感があること。
- (3) 学級長からは、「2泊でできるだけ多くの体験をさせたい」という意見もあったが、居住地や親から離れ、友達とともに協力して生活・活動を行うことに力点を置くので、たとえ2日間であっても組み合わせによって充実感を増すことが可能であること。
- (4) 4年生の宿泊がないため、キャンプファイヤーが実施できることを重視すること。
- (5) 千葉県のお穏やかな自然環境も捨てがたいが、雄大・壮大な自然を目の当たりにでき、各種体験活動の選択肢が富士五湖周辺には多いこと。



市川市読書感想文コンクール **優秀賞** M.A⑤ **優良賞** F.S② S.H② K.N ③ T.N④ M.S⑥  
市民体育大会ミニバスケットボール大会 女子の部 **第3位**

おめでとう